

東京金融取引所は日経平均株価型の株価指数証拠金取引の売買別建玉数量のデータを、毎週火曜と金曜に公表しています。時系列で分析すれば、主たる取引参加者である個人投資家の心理を測る「ものさし」になります。

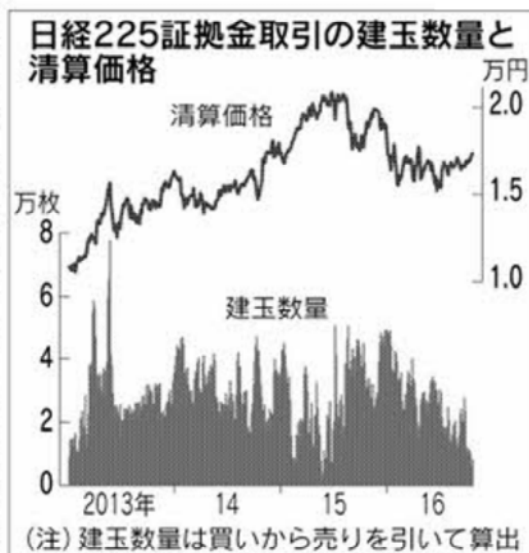
取引には「買い」から入る投資家が多いので、基本的には建玉は買いが売りを上回りますが、相場動向によって大きく変化します。例えば、2013年は買い建玉が大きく膨らみました。アベノミクスによって中長期的な株価の先高期待が高まったためです。逆に、15年は年半ばにかけて売り建玉が増えました。当時、買いから売りを引いた「ネット」の建玉数量は過去最低水準まで落ち込みました。15年の4月に日経平均が2万円の大台を回復し、達成感から「株価上昇は頭打ちになる」

株価指数証拠金取引のイロハ ⑦

個人の心理を映す建玉数量

と考える個人投資家が増えたためとみられます。「逆張り」を好む個人の特性がよく表れた現象といえそうです。

個人投資家の売買動向を映すデータとしては、東京証券取引所が公表する「信用残」があります。個別銘柄を対象としている点が証拠金取引と大きな違いです。また、株価指数をベースにした取引動向を表すものとしては、株価指数先物の建玉残があります。



金取引の四本値や売買高、配当金相当額などを無料で公開しています。こうしたデータにも投資のヒントが隠れているかもしれません。

証拠金取引は個人投資家の資産運用に役立つ新たな金融商品です。特性とリスクを正しく理解して、資産形成に活用してください。

(金融ストラテジスト
岡崎良介)

|| この項おわり

先物は機関投資家が取引の中心です。それぞれの特徴を理解してデータを使い分けるのがよいでしょう。

金融取は建玉数量だけでなく、ホームページで証拠